



地方自治の振興と 体育の普及発展

故 ^{はた}畠 ^{ざわ}沢 ^{きょう}恭 ^{いち}一

御遺族住所
大館市

昭和22年4月以来連続11期県議会議員を務められ、教育の振興をはじめ、地方自治の進展に大きく寄与し、その功績は高い評価を得ている。

また、秋田県体育協会の副会長・会長として長く在任、組織基盤確立のための法人化に尽力し、県内スポーツ諸団体を統轄する県体協の責務とする生涯スポーツ・競技スポーツ両面の振興に顕著な貢献をされた。さらに、県相撲連盟・県陸上競技協会・県スキー連盟・県トランポリン協会・大館市体育協会等諸団体の長として、広く本県スポーツの振興に尽力した。



木材工芸の振興発展

はぎ わら げん じ
菫 原 源 治

(73歳)

住所

秋田市

昭和4年から指物業の家業に入り、この間、和家具洋風家具の製作を体得し、従来からの加工技術上に科学的裏付けを加味した。さらに洋家具のイス、テーブル等に成型合板技術の新傾向を表現し、全国的に、その先駆者の一人と評価されている。また、工芸分野においても、古来からの什器「喰籠」の連作で、衰退・消滅しつつある貴重な文化遺産である伝統的加工技術の再現、伝承を図っている。

木材県といわれる秋田の木材工芸産業はもとより、加工技術デザイン等の継承という文化面の発展にも、中心的立場で貢献している。



機械金属工業の振興と 地方自治の発展

なか た なお とし
中 田 直 敏

(73歳)

住所

大館市

昭和26年秋田県機械金属工業会の創立に参画し、理事・副会長を歴任し昭和61年会長に就任。その間、企業の体質改善のための業界調査研究に努めるなど、本県機械金属工業会の経営・設備・技術等の進歩改善を促進した功績は大である。

特に、当工業会の組織強化と経済基盤確立を図るため、企業間の受発注の斡旋・調整を図り、地域間格差を是正するなど不況対策にも努めた。

また、長い間、秋田地方労働基準審議会など各種審議会委員に就任し、県内労使関係の健全な発展と産業の振興に寄与している。

さらに3期12年間にわたり県議会議員を努め、この間県議会議長を歴任されるなど地方自治の振興にも大きく尽力した。



歌道の普及発展

いちの せき よし み
一 関 吉 美

(67歳)

住所

秋田市

昭和25年創刊の「寒流」に当初より同人として参加し、故石田玲水氏を助け昭和54年からは同誌の編集人として会員の指導と歌誌の発行に努力している。

また昭和32年に発足した秋田県歌人懇話会の設立に準備段階から参加し、常任理事・昭和52年事務局長として10年間会務全般にわたる責任を果たし、昭和61年から代表理事として活躍している。

昭和41年長歌集「はには」、昭和46年歌集「少女抄」合本出版、さきがけ歌壇選者、秋田市歌人協会会長、「叢園」編集同人など短歌文学を中心に幅広く活躍し、現在の隆盛に大きく尽力している。



特殊教育の振興発展

なかむらしろう
中村四郎

(66歳)

住所

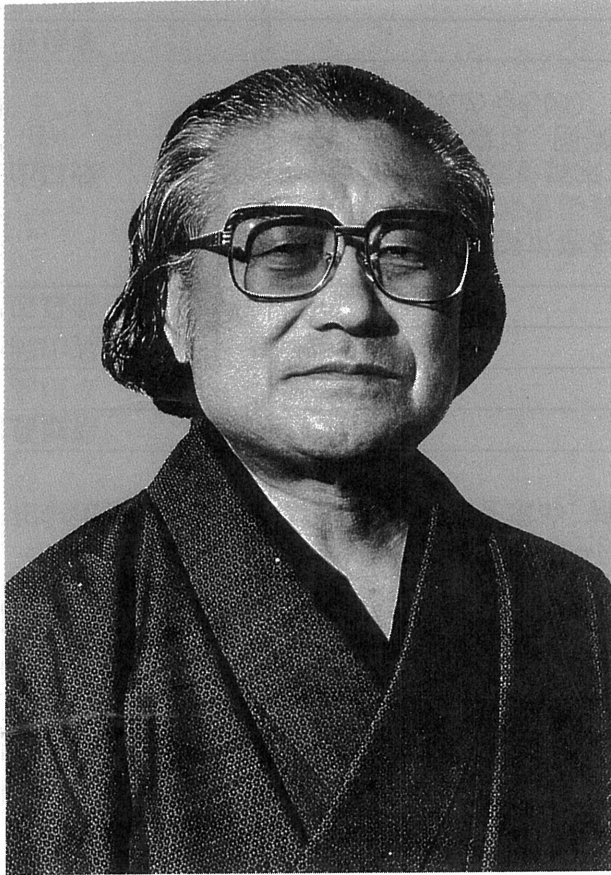
秋田市

現在まで37年間にわたり特殊教育の振興一筋に取り組み、この間昭和30年代始めに、当時未開拓であった精神薄弱教育の研究に着手し、秋田県精神薄弱児対策委員として、県内小・中学校への特殊学級の設置を大きく前進させた。

また、昭和47年秋田大学教育学部附属養護学校初代校長として、精神薄弱児教育の内容・方法の改善充実を指導、実践し、県内特殊教育の充実に大きな影響を与えた。

さらに養護学校教員養成課程が開設される以前から、特殊教育を志す学生の指導にあたりるとともに、現職教員の研修にも献身的に尽力した。

現在、秋田県特殊教育学会会長、秋田県心身障害児就学審議会会長を努めるなど本県教育文化の振興に貢献している。



書道の普及発展

おおのけんじ
大野健治

(63歳)

住所

横手市

昭和6年7歳にして伊藤薜庵書家の指導を受け昭和20年松井如流師の門人となり、本格的書道の道に入る。昭和33年横手高校書道専任講師を勤め、昭和35年書心社を創立し主宰となり現在に至り、さらに、昭和36年には、横手市芸術文化団体連盟設立を企画し、発足後、副会長となる。また、昭和39年には秋田県書道連盟の創立に参画し、副会長となり現在顧問として活躍を続けている。

また、昭和50年には横手書話会を設立会長となり現在に至るが、その生涯を書道一筋にかけた熱情と指導力と積極的行動は大きく評価されその功績は大きい。